



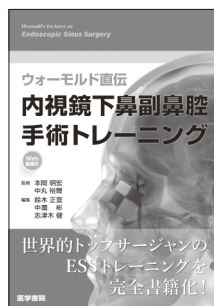
書
評

ウォーモルド直伝 内視鏡下鼻副鼻腔手術 トレーニング [Web 動画付]

監修：本間明宏，中丸裕爾
編：鈴木正宣，中藺 彬，志津木 健

A4・頁 264 2024 年 1 月 定価：15,400 円（本体 14,000 円＋税 10%）
[ISBN978-4-260-05240-5] 医学書院 刊

＜評者＞ 小林正佳（三重大大学院准教授・耳鼻咽喉・頭頸部外科）



世界的に有名な鼻科手術の術者であり，かつ研究者，教育者としても第一人者であるオーストラリア・阿德レード大耳鼻咽喉科の P.J. Wormald 先生が著した『Endoscopic Sinus Surgery』第 4 版が，阿德レード大へ留学し，Wormald 先生から指導を受けた北大・鈴木正宣先生らによって和訳され，2020 年に『ウォーモルド内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術』として出版された。原著には副鼻腔解剖構造や内視鏡下鼻副鼻腔手術に関する多くの要点が記されており，世界標準の知識や手術手技について言語の壁を越えて理解することができる。しかし，実臨床における実践となると，原著に記されている副鼻腔構造や前頭洞への手術アプローチの理解を容易にする Building block コンセプト，手術テクニックを実際の症例でどのように活用するのが重要となる。また，Wormald 先生が実践する鼻科手術において，原著には書き切れない細かなテクニックや術前 CT 読影による手術プラン，周術期管理における要点も存在している。そのような実践的な内容を Wormald 先生から直接教わるチャンスはそう多くない。そこで本書『ウォーモルド直伝 内視鏡下鼻副鼻腔手術トレーニング』が発刊された意義は大きい。

本書では Building block を実臨床に応用する過程が豊富な画像やイラストを用いて詳細に著されている。

術前 CT 読影から副鼻腔構造を症例ごとに詳しく理解し，前頭洞排泄路の最拡大に向けて手術プランを立て，それを実践するというプロセスがわかりやすく図示されている。特にこの 600 点を超える手術イラストは単なる内視鏡映像の模写ではなく，術者の視点から意識して見えている，あるいは見るべき術野が描かれているのが特徴であり，とても理解しやすい。また副鼻腔 3D モデルごとに副鼻腔構造の違いや術中におけるポイントが丁寧に解説されており，本書を見ながら実際に同じ副鼻腔 3D モデルを用いて手術トレーニングを行うことで Wormald 先生の指導を追体験することができる。数学を学ぶときに公式を覚えた後で実践的な演習問題を繰り返し解いて実力を培うのと同じように，本書で学んだ後に繰り返し実践をすることで，鼻科手術に必要な知識や手技を身につけられる。

最後に，本書が初学者にとってわかりやすい実践的な手術トレーニングの教科書として，専門医にとっては自身が習得してきた手術手技をさらにレベルアップさせる参考書として，そして後進を育成する指導医にとっては豊富なイラストや手術動画を活用できる効果的な教育ツールとして，それぞれに活用されることを期待している。